

## 南博の率いた社会心理研究所の軌跡

山本武利

社会心理研究所は法的に公的機関に登録されたことのない民間の研究所である。創立者であり、主宰者である南博が1950年に創設し、2001年の彼の死とともに消滅した。

長期滞在のアメリカから持ちかえった「社会心理学」という新学問を日本女子大学や一橋大学のゼミや講義で教える一方、盛り場や演劇場に学生を動員し、アンケートやインタビューで実践教育を行った。学生の潜在能力も高かったのも、南の期待に応える社会心理の調査結果を生んだ。

1960年代になると活動は一層活発になった。南の声望を慕って研究所の門をたたく人が全国から集まるようになった。一般社会人が若い学生と混じって研究に励むようになった。その成果が1965年の『大正文化』、『社会心理史』の著作である。

1970年代になると大学の図書、設備が整い、学生は現場の調査を避けるようになった。大学院の拡充で増加した院生が研究所の一部を担うようになった一方、民間研究者は歴史の共同研究を地道に推進した。南は晩年まで社会心理史研究に打ち込んだ。社会心理研究所は南の名声、学識、資金とともに動いた20世紀後半期の研究機関である。